
田中5632598号

猿読み

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

田中5632598号

【Nコード】

N4715B

【作者名】

猿読み

【あらすじ】

家畜として大量クローン生産された田中5632598号の、残酷なお話し

（前書き）

殴り書き作品の二号です。多少あれですが御了承ください。

人は自分を証明するために名前を持つ。

カタチや色、いろんな物が違う中、一つの固体として一つの名前を持つ。

しかし俺は違う、一つの名前があつたとしても、同じ者が何万人もいたら、それは俺の存在の名にならない。
家畜として作られた俺には……………

人間はゴキブリだ。そこにある全てを食い散らかし、増殖し、なくなる。とまた別な場所に移動する。

人間はそんな事を繰り返し、ついに地球は空っぽになった。今地球には人間しかいない。

人間しか食べる物が無くなってしまった。

しかしこのまま共食いを繰り返していると人間までいなくなる。

そこで偉い学者が考えた。人間を家畜しよう。

そこで選ばれたのが俺、田中だった。

ひとつ謝らなければならない、俺という表現が間違っていた。正しくは、オイジナルの俺、田中だ。

今ここで話している俺はクローンの田中、そう！田中は大量にクローン生産され、家畜にされたんだ。

俺が何番目のクローンかは、わからない。しかし今こうして君と話

しているという事は、少なくとも俺は食用の田中、田中のエサ用の田中ではない。

君のペットの田中という事になる。それはとても幸せな事だ。

食用の田中は、自分、エサ用の自分を食べて大きくなり、殺され、ミンチにされ、君のランチになる。

本当に俺は幸せな田中だ。

「違うよ」

檻に入れられた俺の目の前にいる小さなご主人様が言った。

「僕のペットの田中はこっちだよ。」

小さなご主人様の後ろから、小さくクローン化された田中が首輪を繋がれ表れた。

それじゃ………いったい俺はなんの田中なんだ………

部屋のドアが開き、大きなご主人様がやってきた。

「コラ！カズ君、これとは喋っちゃダメって言ったでしょ！」

「ごめんなさいママ、でもこの田中おつきになったね。」

「そうね、そろそろ食べ頃ね。そうだ今日はこの田中で丸焼きを作

りましょ！」

「やったあ！僕、丸焼き田中大好き」

嘘だろ！

ペットの田中が俺を見て笑っていた。

俺は大きな電子レンジに入れられて、丸焼き田中、バーベキュー風味に料理された。

「いただきます。」

その日、クローン5632598の田中は、美味しく食べられました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4715b/>

田中5632598号

2010年10月22日01時58分発行